



伊那ロータリークラブ



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 荒木康雄 幹事 向山賢悟 会報委員長 唐木 拓 第2965回 例会2022.9.29 No.1625



2022-23 年度 RI テーマ

IMAGINE ROTARY

ソング 我等の生業**ビジター・ゲスト紹介**

米山奨学生 劉 子渝さん

塩尻 RC カウンセラー 作田永子様

会長談話 荒木康雄会長

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われますが、秋分を過ぎて秋色がしだいに濃くなって参りました。我が家の庭でも金木犀の良い香りが心を和ませてくれています。

過日発表された気象庁によりますと、今年の6月～8月の平均気温は平年を0.91度上回る統計以来2番目の高さで、全国15の観測地点で平均気温が過去最高だったそうです。最高気温30℃以上の日を「真夏日」、35℃以上の日を「猛暑日」と言いますが、猛暑日は、2007年に35度を超える日が珍しくなくなったため、その年の予報用語改正で新たに「猛暑日」と「熱中症」が追加されました。2018年は酷い猛暑となり猛暑日が過去最多の7日となり、この年1,500人以上が熱中症で亡くなっています。今年の猛暑日はその2018年の2倍を超えたとされています。日本の観測史上最高気温は2018年埼玉県熊谷市の41.1度と2020年静岡県浜松市の41.1度が記録されています。地球温暖化で大気全体の温度上昇が原因ですが、日本近海の平均海水気温も今年は平年よりも0.8度高い観測史上最高となっています。日本各地の漁場で獲れる魚の種類が変わってきたり、漁獲量が減ってきている原因にもなっています。環境省のホームページに「2100年未来の天気予報」というニュース仕立ての動画があり、このまま温暖化が進むと2100年には日本の平均気温が今より4.8度上昇し、8月に軒並み

40度を超す日が多くなり熱中症で15,000人が死亡したと報じています。ぜひ皆さんも一度この環境省の動画を見て下さい。私達は、このシナリオを避けるよう地球温暖化防止に真剣に取り組まなければなりません。ところで、最近は40℃以上の日が各地で発生していますが、気象庁は40℃の日を「なに日」と名付けるのでしょうか？「激暑日」それとも「酷暑日」でしょうか？以上、会長談話とします。

誕生祝

(8月)小坂樫男 熊谷勝昌
 藤澤洋二 吉澤祥文
 大石ひとみ 熊谷吏朗
 唐澤幸利 本田敏和
 唐木 拓



(9月)中川博司 清水紀光 飯島松一

結婚記念日祝

(8月)大石ひとみ 唐木 拓
 (9月)中山一郎 八木沢真 本比田哲郎

在籍祝

(8月)唐澤幸利(6) 三澤 聡(2)
 (9月)宮下 裕(18) 小坂樫男(12)
 原田和愛(5) 増田 清(5)

**幹事報告**

別紙をご覧ください

理事会報告

1. 9月のプログラム 2. 職場例会中止 3. 伊那ロータリー杯予算等 4. コロナ禍での今後の例会について 5. 会員増強クラブフォーラムの振替開催 これら全て承認された。

委員会報告 第20回伊那ロータリー杯報告

八木沢真青少年奉仕副委員長

9月19日に各会場で1、2回戦が行われましたが、23日(例会)は雨天のため中止となりました。11月にRC杯として最後の準決勝・決勝が予定されていますので、役員が参加する予定です。

ハイブリッド例会説明

伊那ケーブルテレビのスタッフらにより、ZOOM についての説明がされた。

出席報告 会員数 56 名 内出席免除者 19 名
出席者 31 名 事前メールキャップ 0 名 出席 67.39%

ニコニコボックス

- ・荒木康雄・向山賢悟 劉さん、作田さんようこそ伊那 RC へお越し下さいました。
- ・作田永子様 本日は留学生と共にお世話になります。
- ・山田 益 上着を忘れました、バツです。
- ・在籍祝
- ・ゴルフ部上位入賞者

卓話 米山奨学生 劉 子渝さん 演題-「留学生としての私」

現在は、信州大学・総合人文社会科学部研究科に在学していて、大学院 2 年生です。実家は、北京のすぐ隣にある天津です。昔から海外貿易を中心に栄えてきました。



私は日本語を第 2 外国語として授業を取り始めることをきっかけで、両親と初めての日本旅行に来たことが、私の人生を変えました。人がいっぱいな空港なのに、いつもツヤツヤした床、落ち着いている町、町に歩いている礼儀正しい人々、といったすべてが私の心に響いていました。そこから、私は日本の優しさと伝統的な雰囲気惹かれて、将来日本で生活したいという決意が固まってきました。

そして、大学卒業後の翌年から日本の留学生活が始まりました。2019 年、神戸で 1 年間ほど日本語学校に通っていた後、2020 年から長野県に引っ越してきて、信州大学に進学することにしました。来年 4 月に「日本電産サンキョー」に入社する予定です。将来は大好きな日本で、社会人として自分の能力を活かしていくように頑張ります。

今年の 4 月から塩尻ロータリークラブとカウンセラーの作田さんにお世話になっています。毎月の例会参加、ロータリアン達との交流、作田さんのおかげで見られた小澤征爾のコンサートとか、それらの全てが学校で体験できないものです。ロータリーのおかげで、これまでの留学生生活をより充実に過ごさせていただきまして、心から大変感謝しております。

最後は、大学院での研究テーマについて簡単に説明します。大学院では歴史学の専攻で、修士論文は 19 世紀に広東系華人が介入した中国とアメリカに関わる貿易史について取り扱う予定で

す。

19 世紀半ば、カリフォルニア州で鉱山が発見されるとともに、カリフォルニア州に世界各国の外国移民者が流入しました。それによって、サンフランシスコおよびその周辺を中心にした貿易の成長に伴い、アメリカ商船は大西洋ではなく太平洋を渡って清朝と取引を行いはじめました。この時期、カリフォルニアでは移民者が殺到したことで、住宅不足に陥ったのです。それに応じた香港でアメリカ向けの建築部品の需要が急増するとともに、製造業と海上運輸業が発展するようになりました。それによって、香港もやがて米中間の仲介貿易港となりました。ここで重要になってくるのは、香港経由でカリフォルニアに向かう華人の人数と貿易船が増えたことで、食料や燃料を補給できる基地が必要となったことです。このことを背景として、1853 年にアメリカは日本に開国を求めて、圧力を受けた日本政府はその翌年に日米和親条約の締結による開国を余儀なくされました。日本史上で新たな時代の幕開けとなる出来事、「ペリー来航」の背景には、19 世紀米中貿易の拡大をきっかけとした、太平洋航路の形成があったのであると考えられます。

ここでは、先ほど取り上げた内容を簡単にまとめたものです。

19 世紀の米中貿易は、ゴールドラッシュ以前に「アメリカ東海岸—インド洋—東南アジア—清朝」という大西洋航路で行われていました。しかし、ゴールドラッシュ以降にアメリカ西海岸における急激な人口移動と貿易の発展によって通航ルートが「アメリカ西海岸—日本—香港—広東」へと変わっていったのです。その背景には、ゴールドラッシュを契機に世界中の注目を集めたカリフォルニアが新たな移民先となり、中国、特に広東からの「ヒトの移送」と「モノの運輸」を機軸とした経済活動が規模的に拡大されることがありました。

それに深い関わりがある中継地の香港が、米中間の商品の取引だけではなく、次第に多角的な国際貿易と華人事業を巻き込んで活発化していきました。そういった事業も 19 世紀米中貿易の一部に位置付けられるべきであろうと考えられます。

ということで、香港とアメリカにいた広東系華人の介入が 19 世紀の米清貿易にどれほど影響を与えたか、とのことについて、今後の課題として修士論文で引き続き考察していきます。

以上で、本日の卓話は終了になります。

お時間をいただきまして、ありがとうございました。